

利用者・利用団体等からの 意見収集・整理の状況

【目次】

1. 意見の収集方法について
2. WEBアンケートの調査結果（全体集計）
3. WEBアンケートの調査結果（上流域集計）
4. 利用団体等ヒアリングの概要

1. 意見の収集方法について

意見収集の目的と実施する調査の種類

2

意見収集の目的	調査方法
1. 地域における淀川とその河川敷の存在のイメージ、淀川河川敷の将来のあり方についての大まかな考え方を、 広域的な視点から把握	A. インターネットを活用した広域WEBアンケート調査
2. 実際に淀川河川公園を利用している立場から、利用している地区の現状における具体的な問題点・課題、今後の整備内容に対する要望を把握	B. 淀川河川公園地域協議会ホームページ上で回答できるアンケート調査 (河川公園等にて、紙による調査票を入手して回答できるアンケート調査を含む)
	C. 淀川河川公園各地区の主要な利用団体等へのヒアリング調査

調査の実施状況

3

調査方法	調査期間	実施状況
A. 広域WEBアンケート	平成22年 8月20日 ～8月25日	調査終了
B. ホームページ上で回答できるアンケート	平成22年 9月1日 ～10月31日	淀川河川事務所ホームページ上で実施中
		同時に、紙によるアンケート調査票を淀川河川公園にて配布、回収したものから集計中 (10/6時点で627サプル回収)
C. 主要な利用団体等へのヒアリング	平成22年9月	5団体等にヒアリングを実施

2 . W E B アンケートの 調査結果 (全体集計)

調査概要

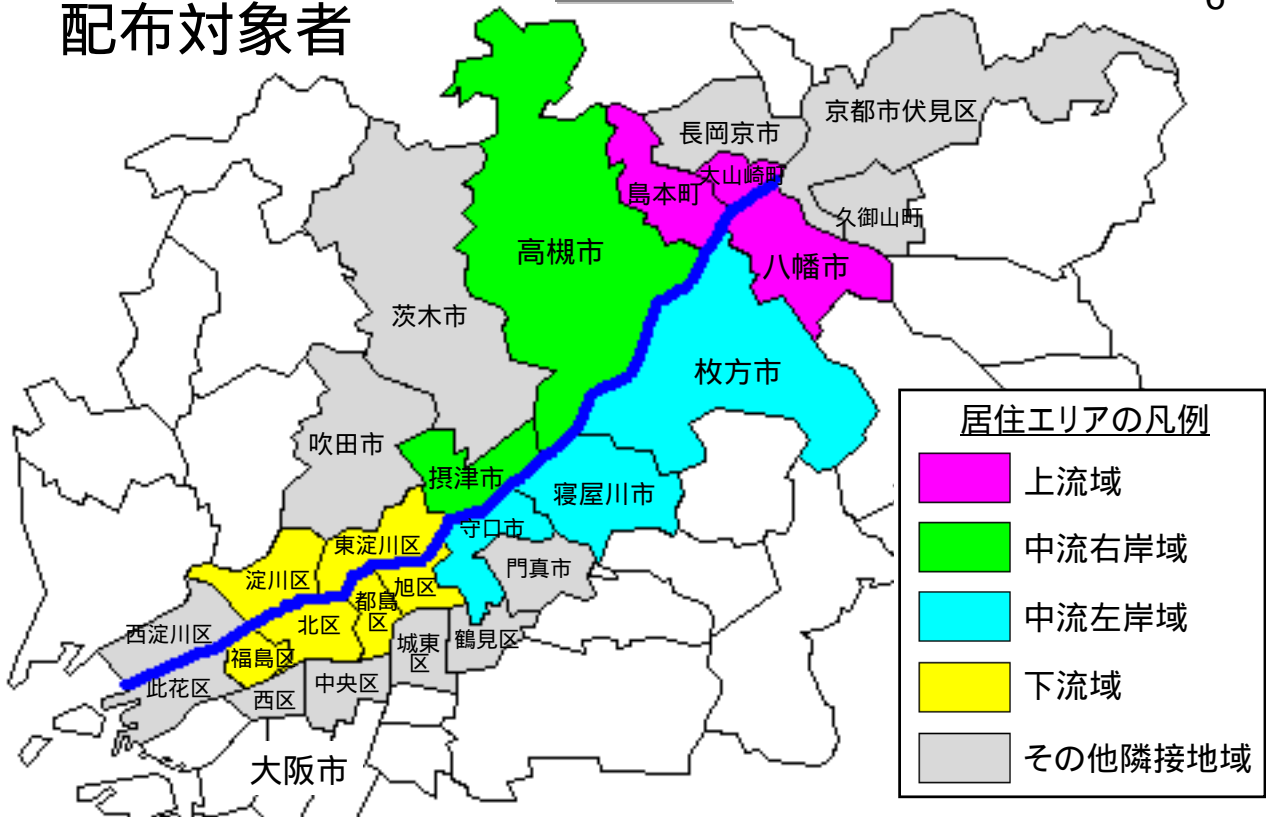
意見収集の目的

地域における淀川とその河川敷の存在のイメージ、淀川河川敷の将来のあり方についての大まかな考え方を、広域的な視点から把握する

調査方法

インターネットを活用した、
広域W E B アンケート調査

配布対象者



H21年度に実施した河川公園利用者アンケート(サンプル数 = 約900人)の結果を参考に、来園者の約9割をカバーする範囲をWEBアンケートの配布対象居住エリアとした。

調査期間： 平成22年8月20日～8月25日

取得サンプル数

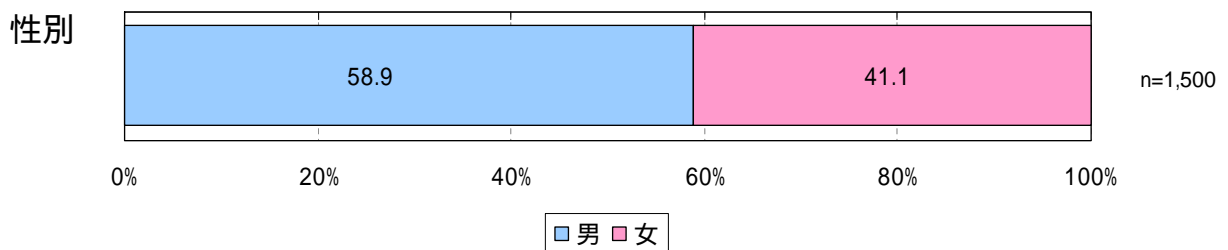
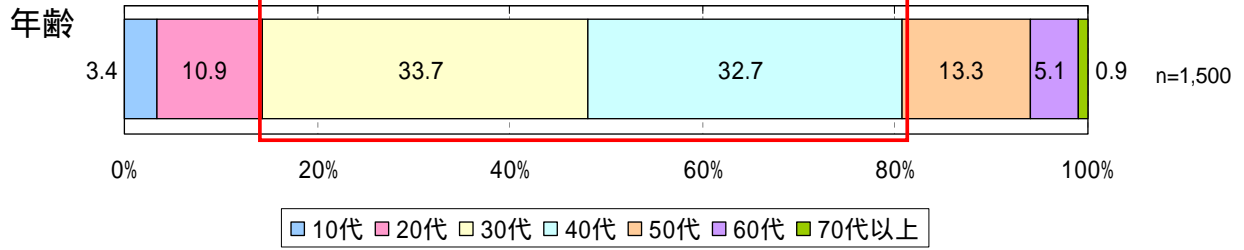
単位：サンプル

居住エリア	高頻度利用者 (ほぼ毎日 ～年に数回)	低頻度利用者 (年に1回 ～訪れたことがない)
上流域	200	100
中流右岸域	200	100
中流左岸域	200	100
下流域	200	100
その他隣接地域	200	100
合計	1,000	500

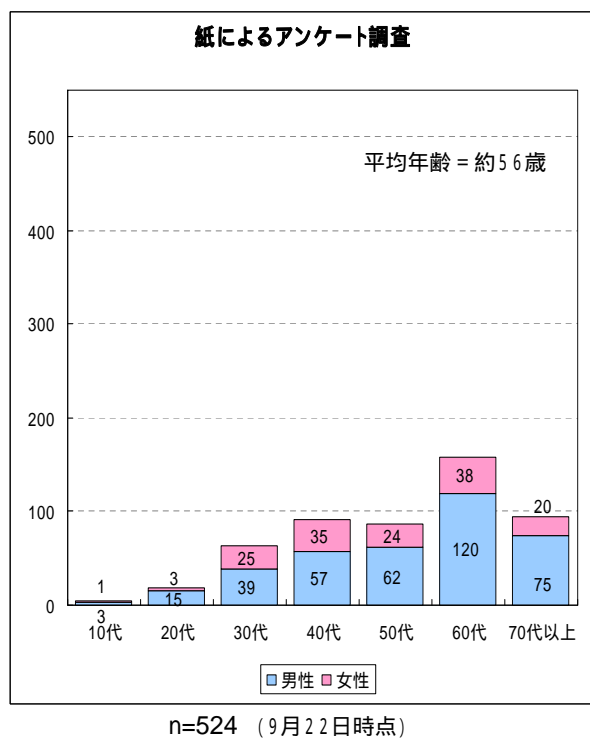
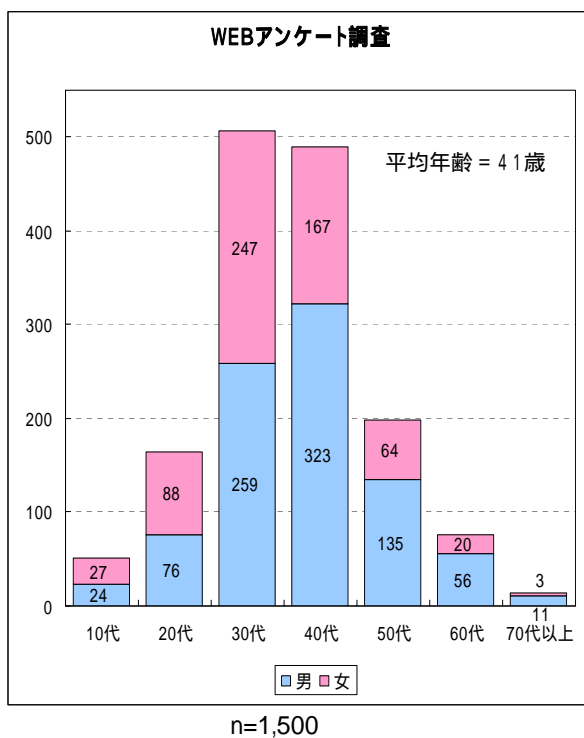
河川公園各地区の課題や整備の方向性に関する情報を確実に得るため、高頻度利用者を多めに(1,000サンプル)確保することとした。

年齢・性別

- WEBアンケートの回答者の年齢構成は、30代・40代が全体の7割近くを占めている。

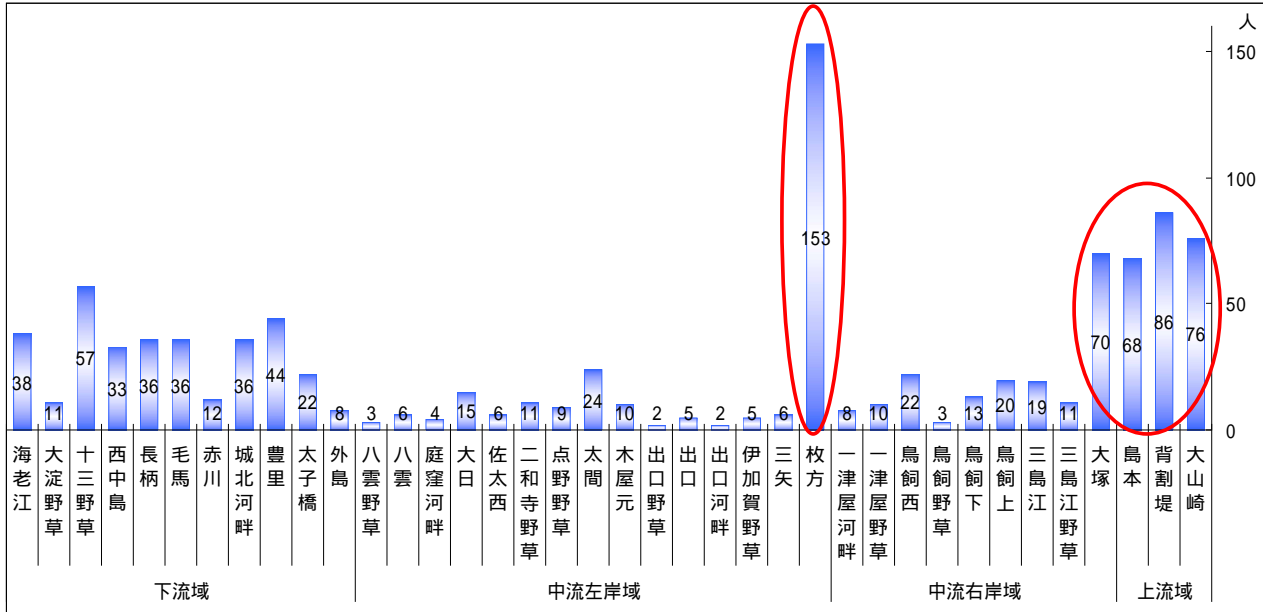


参考 アンケート調査回答者の年齢・性別

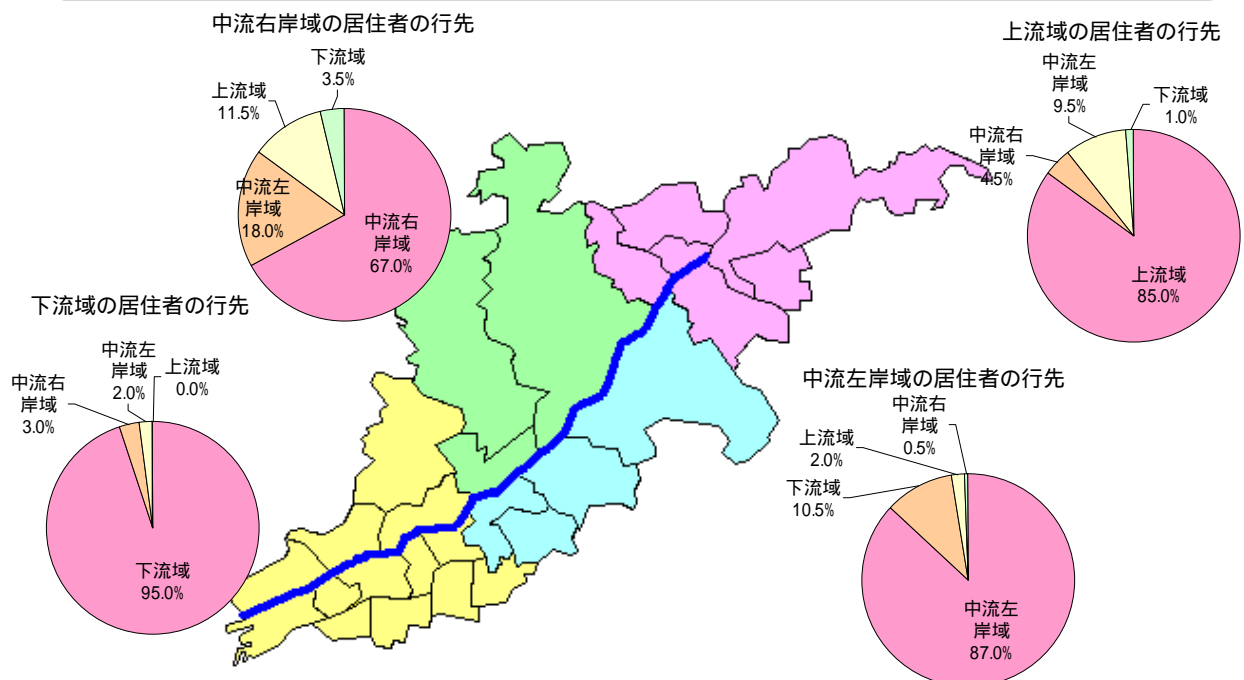


- 上流域の島本地区、背割堤地区、大山崎地区、中流左岸域の枚方地区、中流右岸域の大塚地区に利用者が集中している。

淀川河川公園で最も頻繁に利用する地区



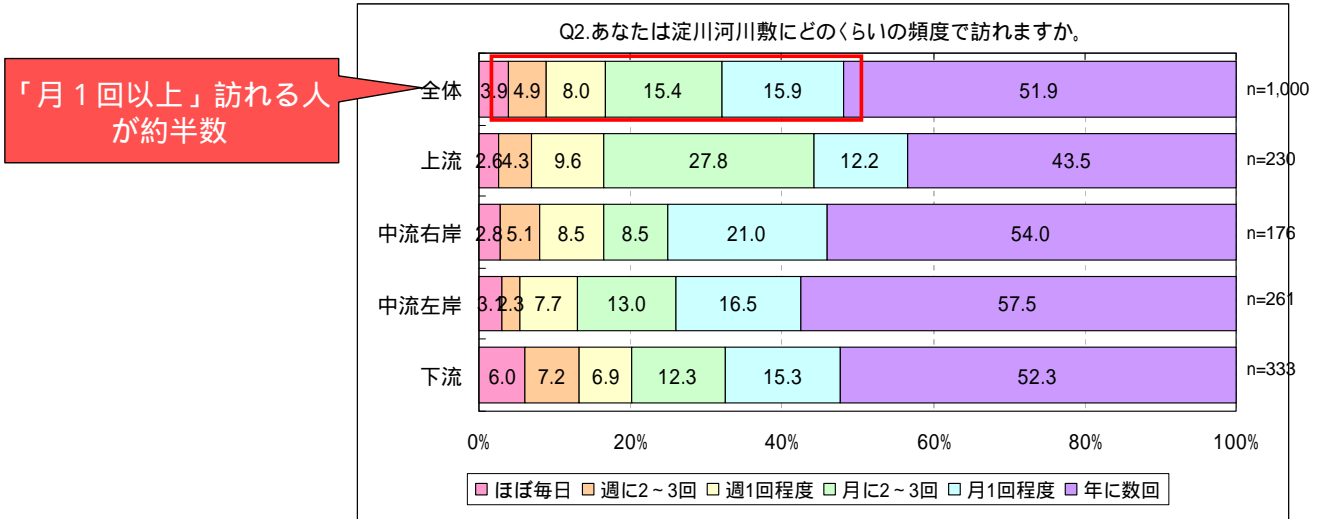
- 中流右岸域の住民は、対岸や上流域の公園地区を利用している人が多い。



利用頻度

- 淀川河川敷を利用している人の約半数は、毎月1回程度以上訪れている。

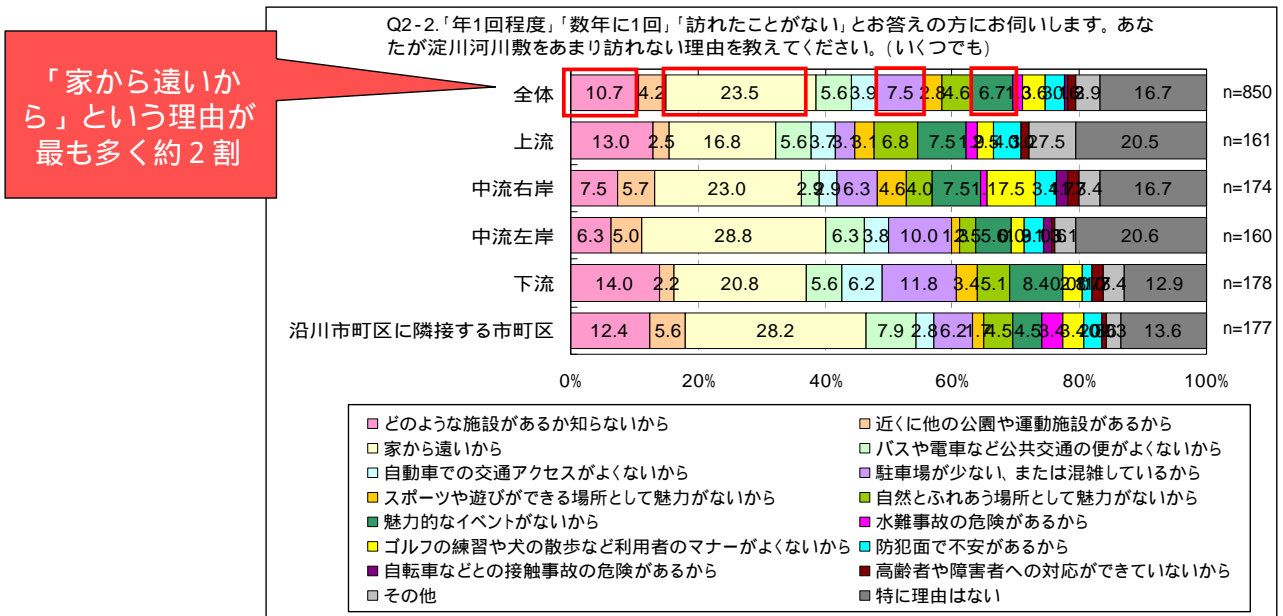
淀川河川敷に訪れる利用頻度



訪れない理由

- 「家から遠いから」訪れないという理由が多く、約2割を占める。
- 次に「どのような施設があるか知らないから」、「駐車場が少ない・混雑しているから」、「魅力的なイベントがないから」と続く。

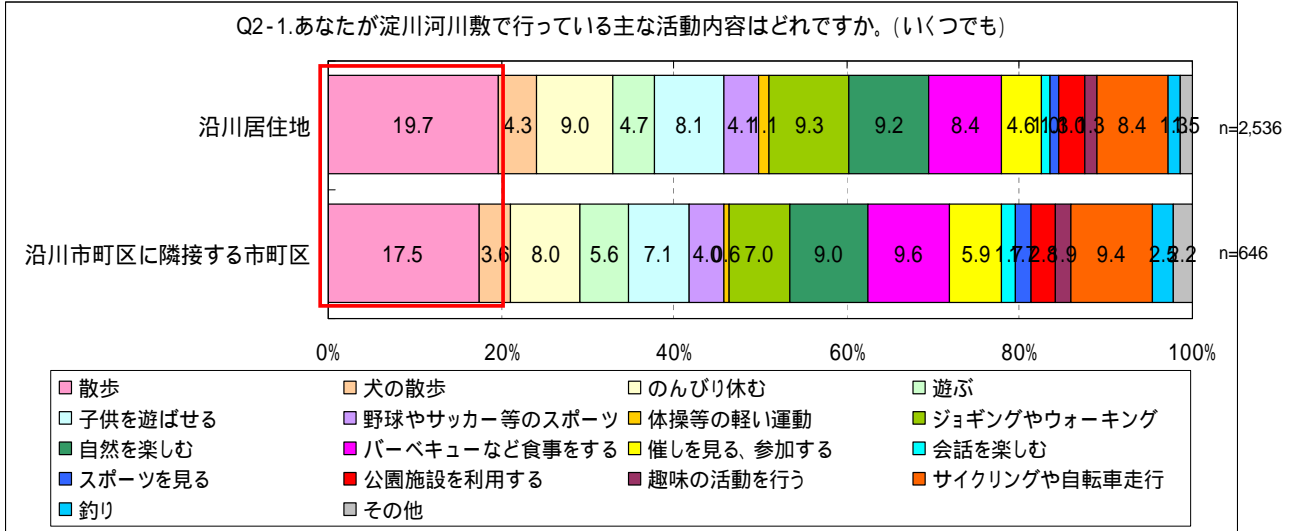
淀川河川敷をあまり訪れない理由



活動内容(1)

- 「散歩」利用が最も多く、全体の2割程度となっている。
- 居住地と淀川公園との距離は利用内容にはあまり影響がない。

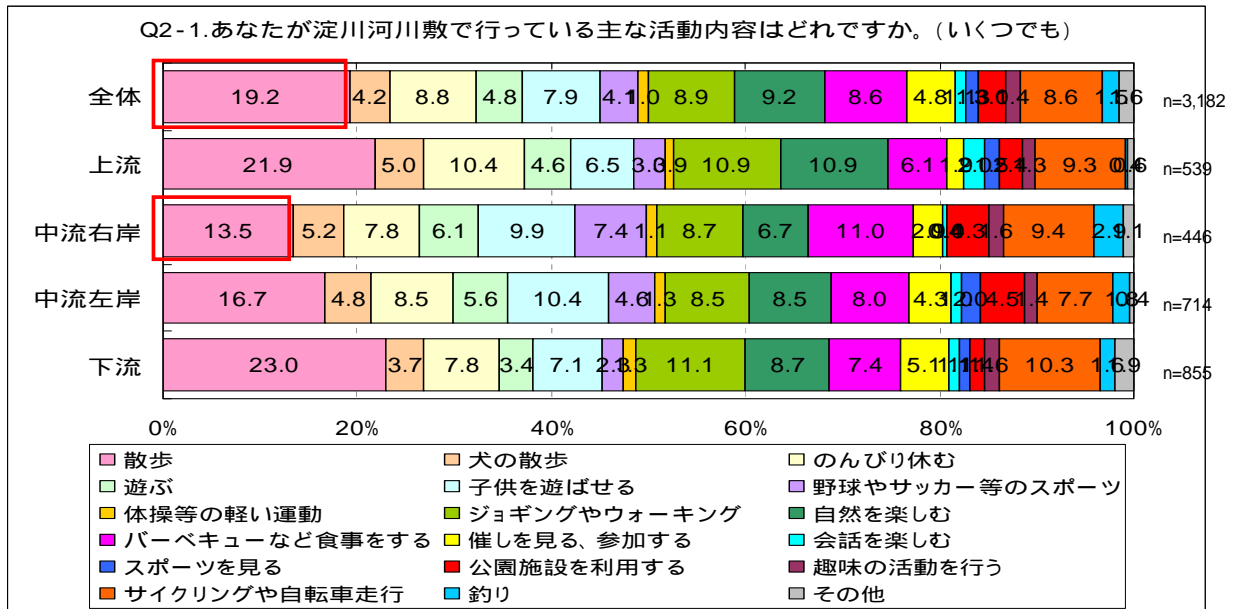
淀川河川敷で行っている主な活動内容(居住地による比較)



活動内容(2)

- 全体的に、「散歩」利用が最も多く、約2割を占める。
- 中流右岸域は「散歩」の占める割合が他地域より少ない

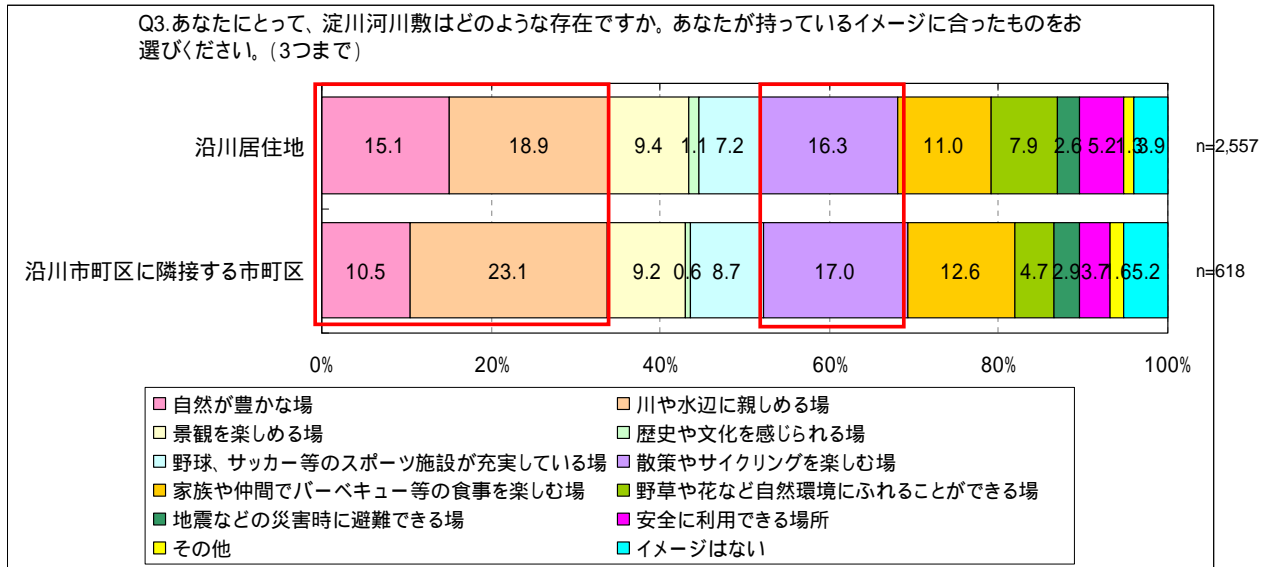
淀川河川敷で行っている主な活動内容(利用地域による比較)



河川敷のイメージ

- 「川や水辺に親しめる場」が最も多く、約2割を占める。
- 次に「散歩やサイクリングを楽しむ場」が多い。
- 沿川の住民は「自然が豊か」というイメージが強く、沿川に隣接する地域の住民は「水辺に親しめる場」のイメージが強い。

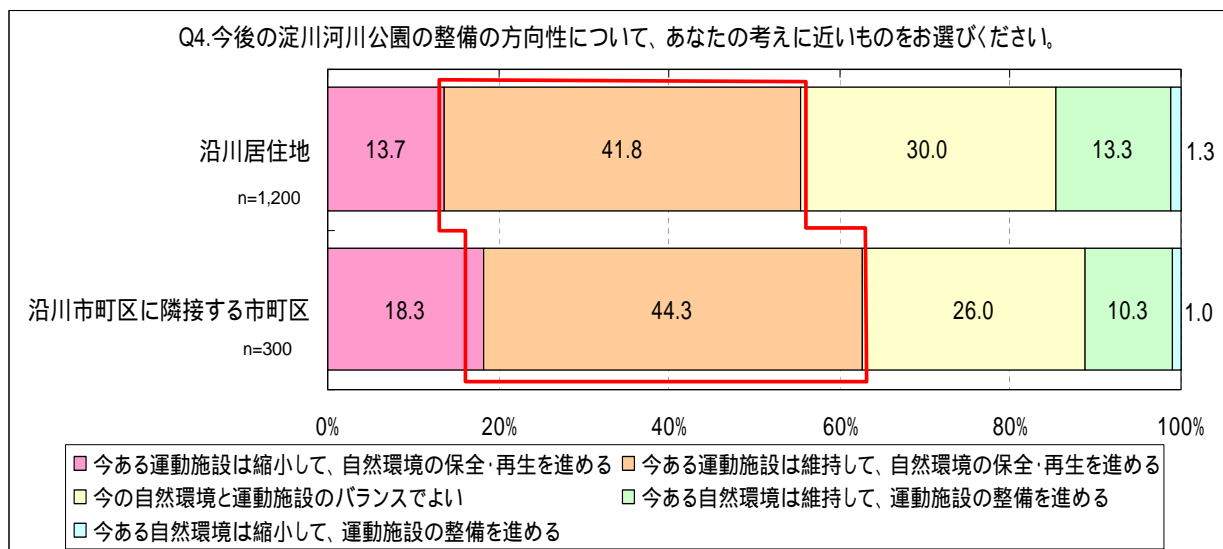
淀川河川敷に持っているイメージ



公園整備の方向性

- 「今ある運動施設は維持して、自然環境の保全・再生を進める」と考えている人が最も多く、約4割を占める。

淀川河川公園の整備の方向性

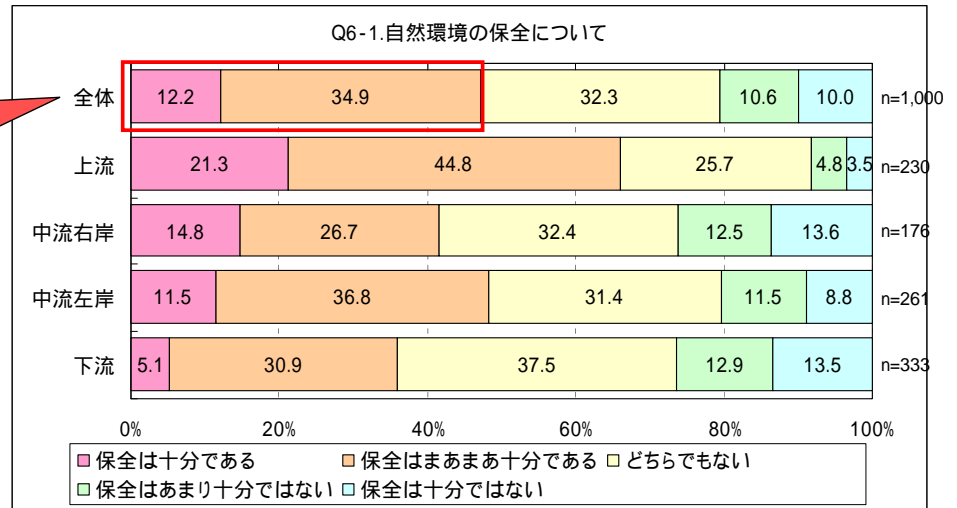


利用地区の現状（1）

- 自然環境の保全が十分であると認識している人が約5割を占める。
- 上流域の利用者ほどその傾向が強い。

自然環境の保全について

自然環境が十分であると認識している人が約5割

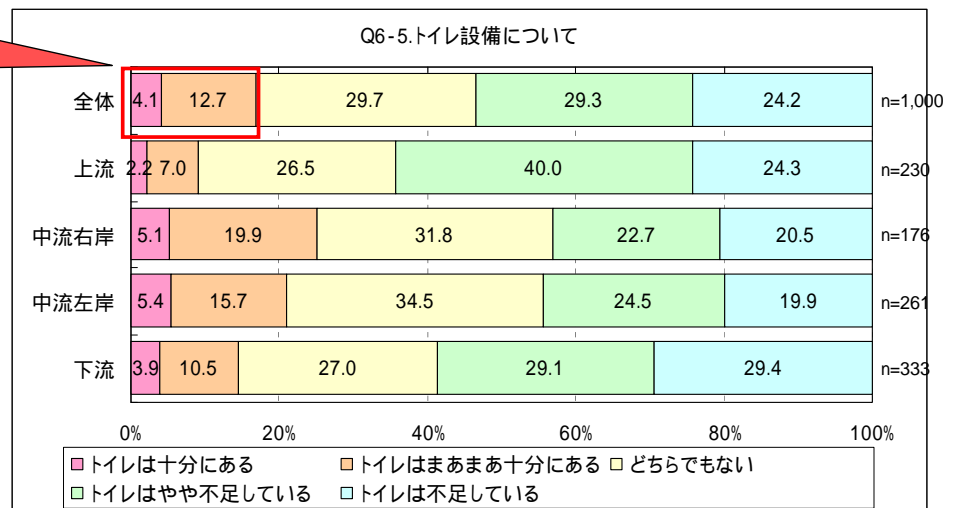


利用地区の現状（2）

- トイレ設備が十分にあると認識している人は2割程度であり、上流域では不足と感じている人の割合が高い。

トイレ設備について

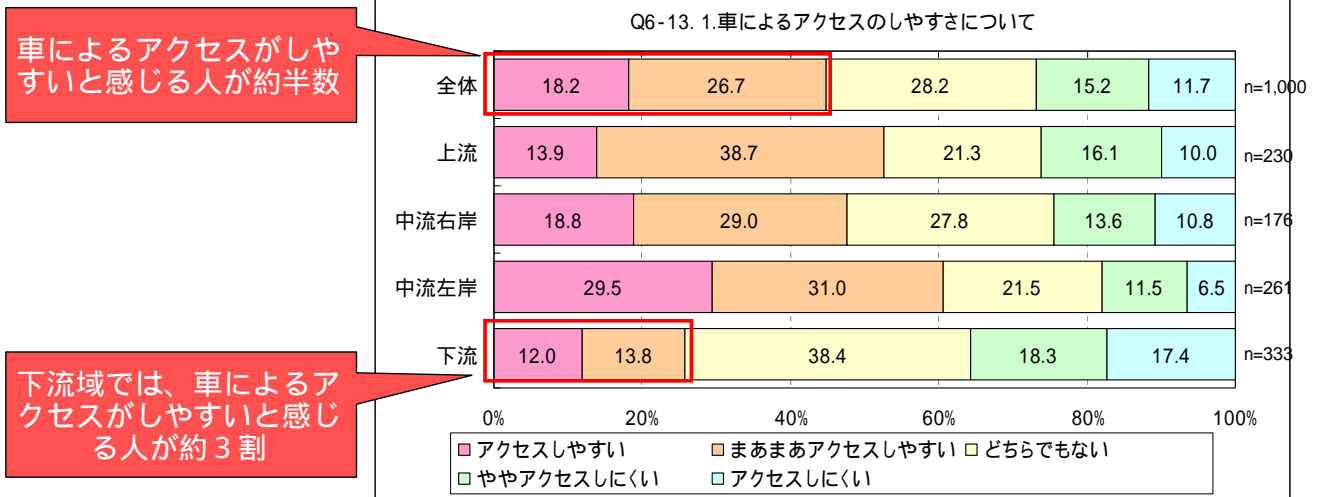
トイレが十分にあると認識している人は約2割



利用地区の現状（3）

- 車によるアクセスがしやすいと認識している人が約半数を占める。
- 下流域では、車によるアクセスがしやすいと認識している人は少ない。

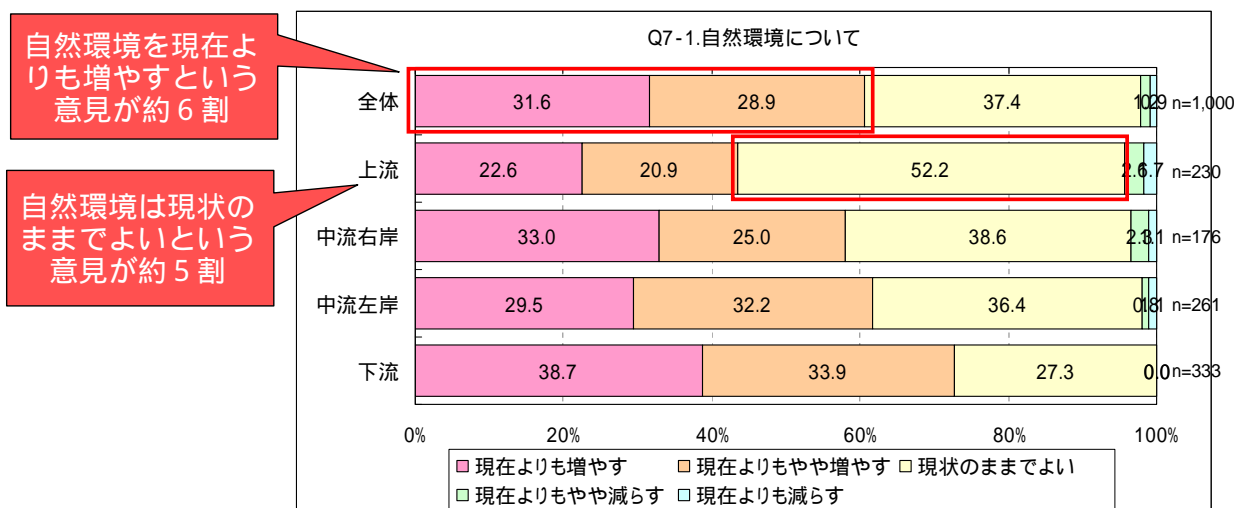
車によるアクセスのしやすさについて



今後の整備への期待（1）

- 自然環境を現在よりも増やすことを期待する人が約6割を占めており、下流域ほど、その傾向が強い。
- 上流域では、現状のままでよいという意見が約半数を占める。

自然環境について

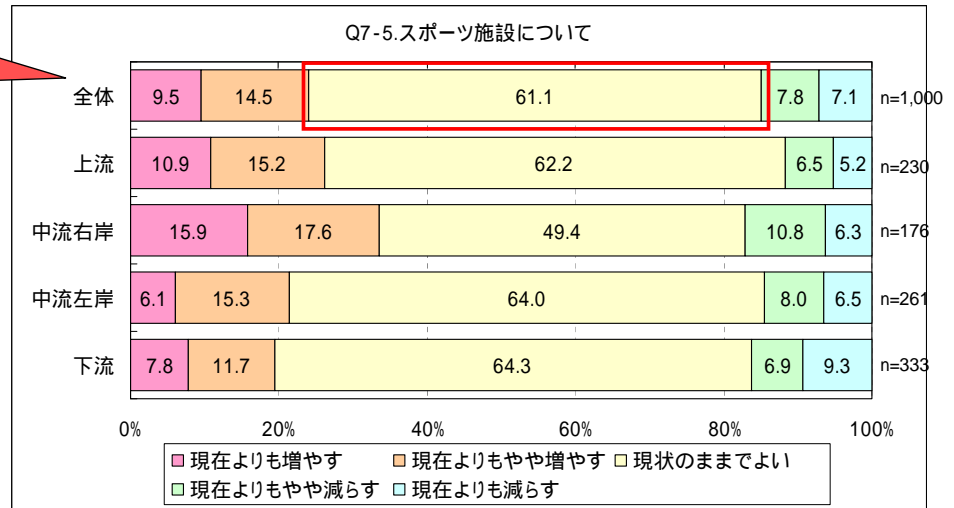


今後の整備への期待（2）

- スポーツ施設は現在のままでよいという意見が約6割を占める。

スポーツ施設について

スポーツ施設は現状のままでよいという意見が約6割



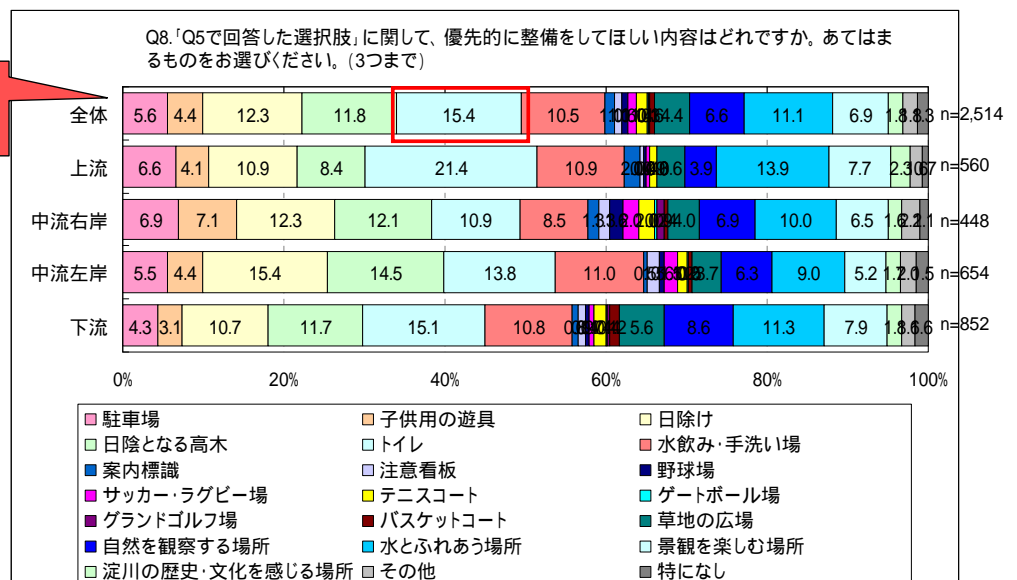
複数回答

優先的な整備内容

- トイレの整備要望が最も多く、約2割を占める。
- 次いで、日除け、日陰となる高木、水飲み、水とふれあう場所等の要望が多い。

優先的に整備してほしい内容

トイレの整備要望が最も多く約2割



3 . W E B アンケートの 調査結果 (上流域集計)

高頻度利用者を対象

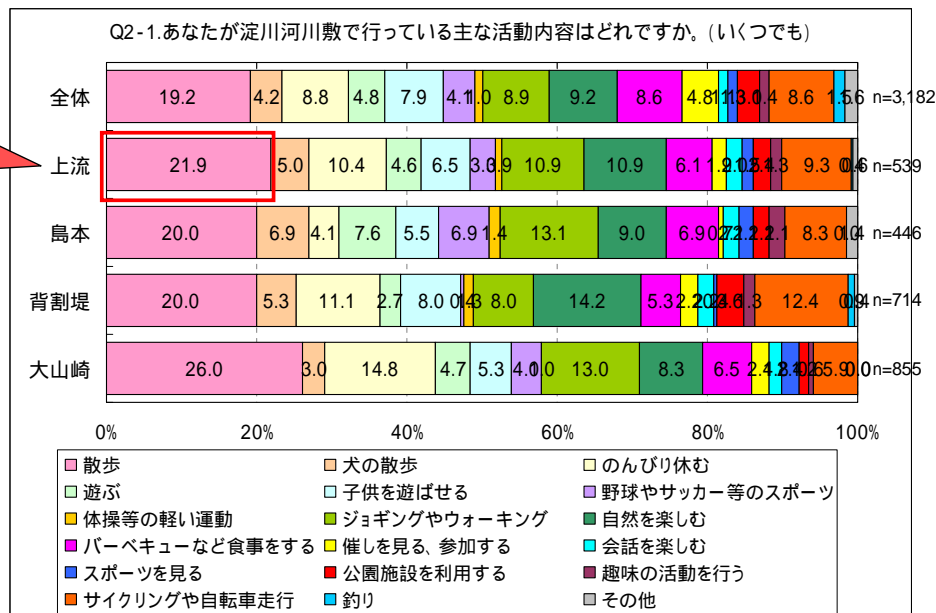
複数回答

活動内容

- 上流域では、「散歩」利用が最も多く、約2割を占める。

淀川河川敷で行っている主な活動内容

「散歩」利用で訪れる人が上流域で約2割



複数回答

河川敷のイメージ

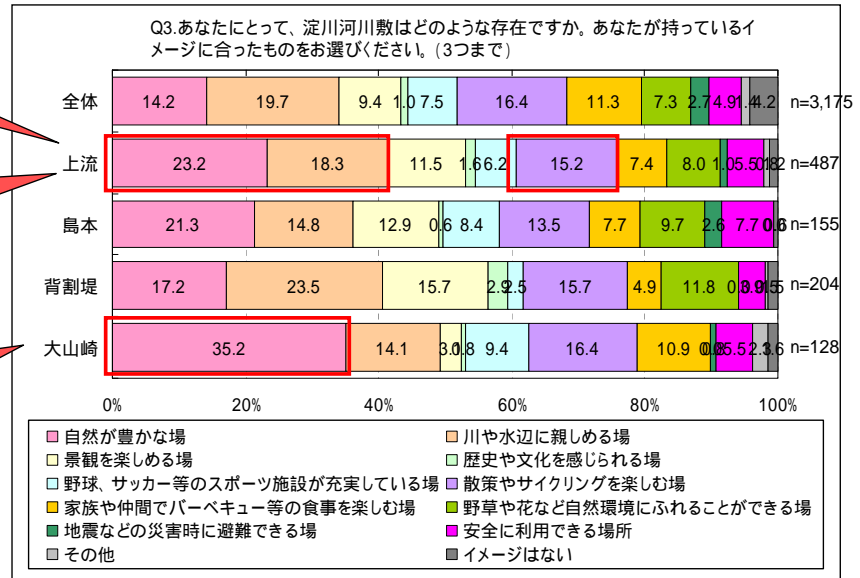
- 上流域では、「自然が豊かな場」が最も多く、約2割を占める。
- 次いで、「川や水辺に親しめる場」、「散歩やサイクリングを楽しむ場」が多い。
- 大山崎地区では、「自然が豊かな場」が最も多く、約4割を占める。

淀川河川敷に持っているイメージ

「自然が豊かな場」が最も多く
約2割

「川や水辺に親しめる場」、
「散歩やサイクリングを楽しむ
場」が多い

大山崎地区では「自然が豊かな
場」が約4割



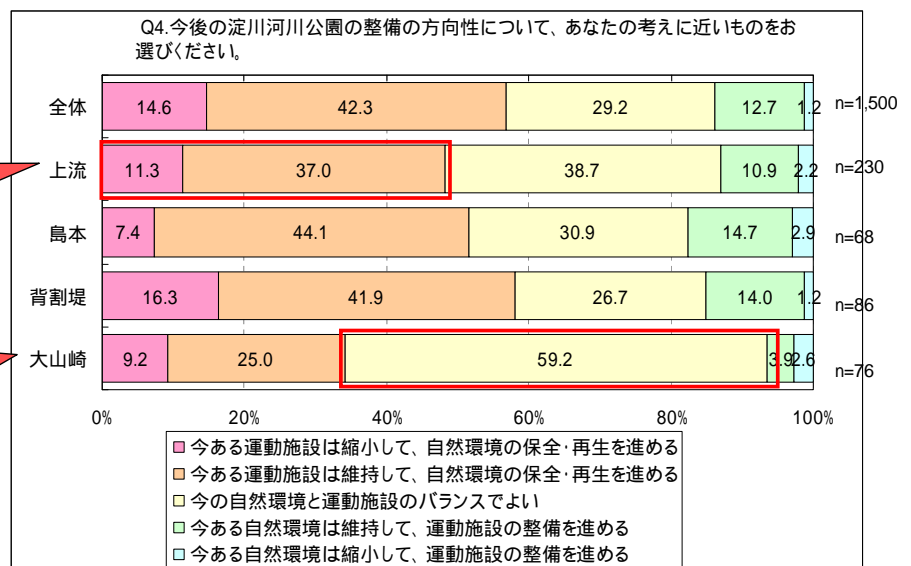
公園整備の方向性

- 上流域では、「今ある運動施設は維持して、自然環境の保全・再生を進める」と考えている人が約5割を占める。
- 大山崎地区では、「今の自然環境と運動施設のバランスでよい」と考えている人が約6割を占める。

淀川河川公園の整備の方向性

「今ある運動施設は維持して、
自然環境の保全・再生を進め
る」という考えが約5割

大山崎地区では、
「今の自然環境と運動施設
のバランスでよい」という
考えが約6割

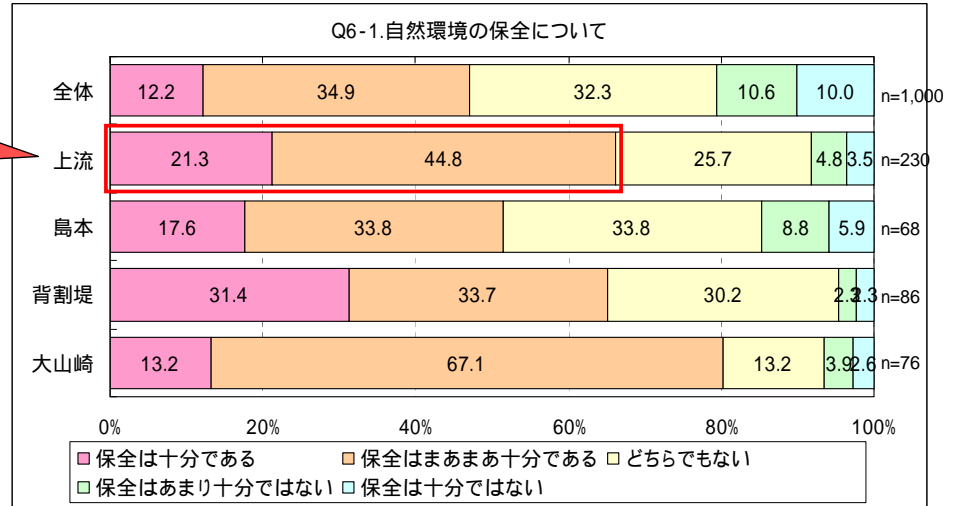


利用地区の現状（1）

- 上流域では、自然環境が十分にあると認識している人が約7割を占める。

自然環境の保全について

保全は十分であるとの認識が約7割

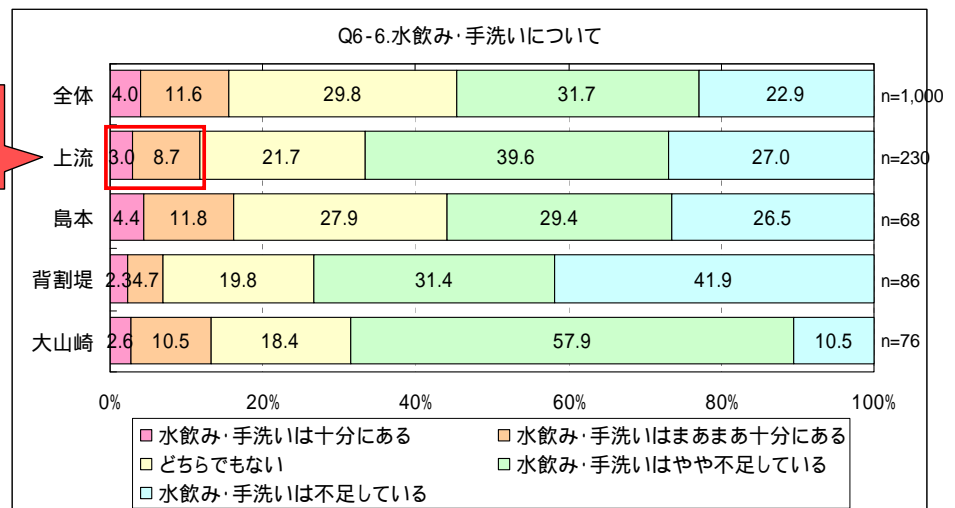


利用地区の現状（2）

- 上流域では、水飲み・手洗いが、十分にあると認識している人は、1割程度しかいない。

水飲み・手洗いについて

飲み・手洗いが十分にあると感じる人が約1割

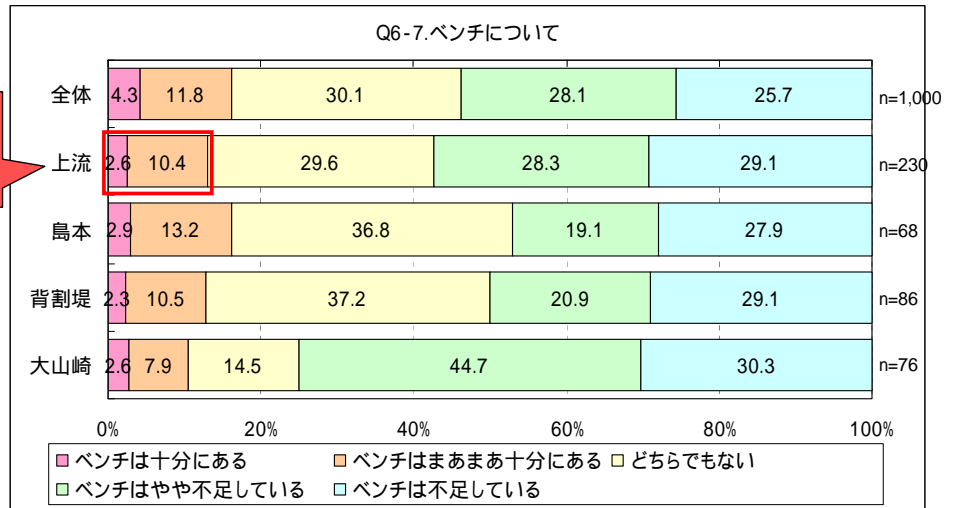


利用地区の現状（3）

- 上流域では、ベンチが十分にあると認識している人は、1割程度しかない。

ベンチについて

ベンチが十分にあると認識している人が約1割

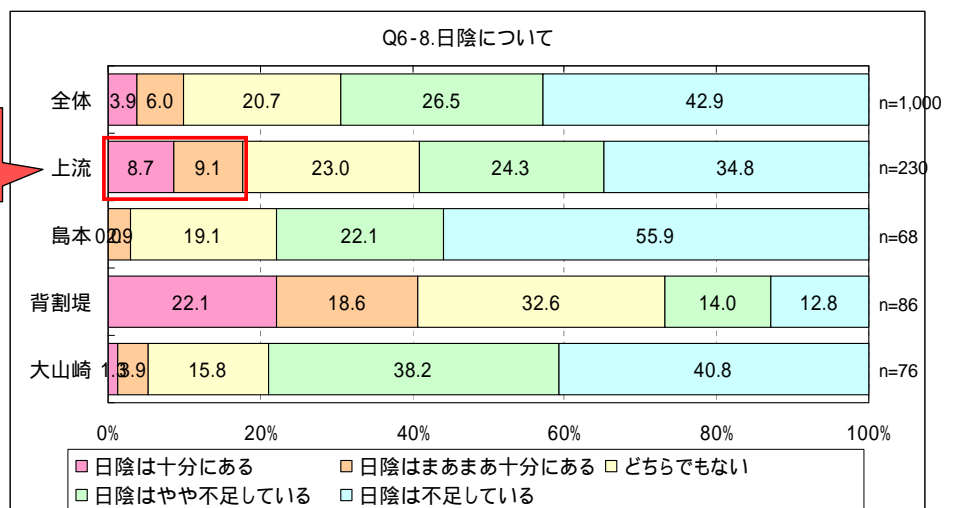


利用地区の現状（4）

- 上流域では、日陰が十分にあると認識している人は、2割程度しかない。

日陰について

日陰が十分にあると認識している人が約2割



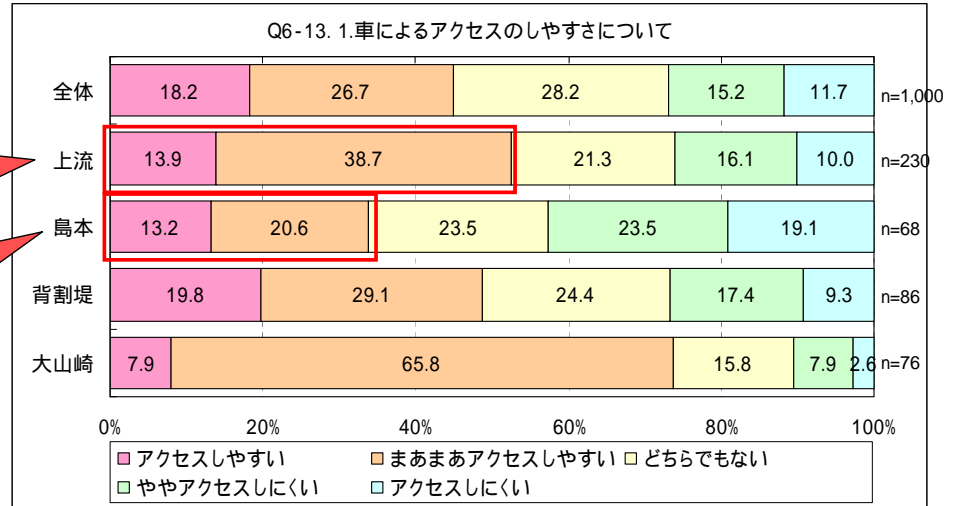
利用地区の現状（5）

- 上流域では、車によるアクセスがしやすいと認識している人が約5割を占める。
- 島本地区では、車によるアクセスがしやすいと認識している人が約3割と少なくなっている。

車によるアクセスのしやすさについて

車によるアクセスがしやすいと感じる人が約5割

島本地区では、車によるアクセスがしやすいと感じる人が約3割

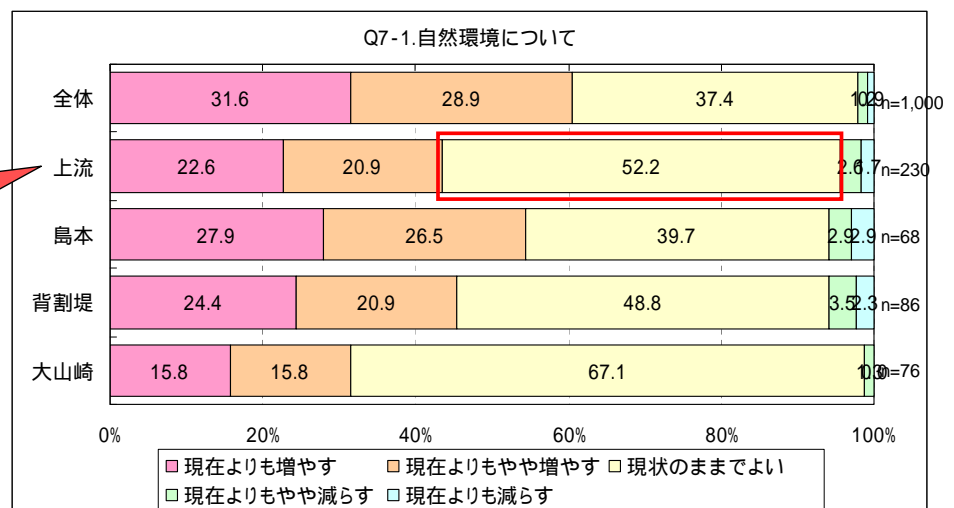


今後の整備への期待（1）

- 上流域では、自然環境の今後の整備について、現状のままでもいいという人が最も多く、約5割を占めており、各地区とも同様の傾向である。

自然環境について

自然環境について、「現状のままでよい」という意見が約5割



4. 利用団体等ヒアリングの概要

ヒアリング対象の利用団体等

- ・乙訓青年会議所まちづくり実行委員会
- ・乙訓桂川愛護会
- ・藍野療育園（肢体不自由児通園施設）
- ・高槻市立第七中学校
- ・淀川河川レンジャー（酒井氏）

利用団体等ヒアリングの概要

37

地域区分	上流域	利用団体等の名称	乙訓青年会議所 まちづくり実行委員会
主な活動地区	大山崎地区		

取組みの概要

- ・年1回、大山崎地区で「乙訓水辺フェスティバル」を開催
- ・より多くの市民に地域の自然環境などの良いところを住民に知っていただくために、スペースが広い大山崎地区を選択
- ・イベントの内容は、竹とんぼづくり、竹のイカダ下り体験、魚のつかみ取り等。

ご意見の要点

河川公園でありながら水にふれあう場所が少なく、水に近くて実際は遠い。水に近づける機会があれば、淀川河川公園の魅力の向上につながる

地域の自然環境などの良いところを、住民に知ってもらうことが大切。淀川河川公園でのイベント開催はそのための良い機会となるため、イベント利用に配慮した整備が望まれる

近隣自治体と連携してイベントを開催できれば、背割堤地区など隣接する公園地区を一体的に利用しやすくなる

地域区分	上流域	利用団体等の名称	乙訓桂川愛護会
主な活動地区	大山崎地区		

取組みの概要

- ・主に桂川やその支流の小畑川を中心に、自然観察会の開催、親水空間の保全、植物調査、外来種の駆除、魚の調査、河川清掃等を実施
- ・大山崎地区の前で親子カヌー教室等を実施

ご意見の要点

現状の河川公園では、**河川を楽しむことができていない**
 子供たちが河川公園で**自然観察をできるようにすることが望ましい**

川を利用してもらうためには、川に近づけるようにすることが非常に重要。そのために川にアプローチできる道、川沿いに歩ける道が不可欠

大山崎地区付近の桂川や木津川はカヌーを楽しめる場としてのポテンシャルが高い。カヌーを楽しむには船着場がなくても、河原があり、水辺まで行けるなだらかな道があれば十分

地域区分	上流域	利用団体等の名称	藍野療育園 (肢体不自由児通園施設)
主な活動地区	大山崎地区		

取組みの概要

- ・身体障害者の遠足で大山崎地区を1回利用
- ・施設から短時間(約30分程度)で行けること、広々としたフラットな空間、管理員が常駐していること、緊急の場合に備えて病院等が近くにあることが、身体に障害がある人の利用にあたって必要な条件。水辺に近づけることはあまり重要ではない

ご意見の要点

河川公園は、**フラットで移動しやすい空間**、人目を気にしなくてもよい広さ、**管理員が常駐**していることなど、**身体障害者による利用のポテンシャルは高い**

広くて爽快であることや、土や芝生に直接ふれられることが河川公園の魅力

木陰や身障者用のトイレがあるとよい

一時使用の申請手続きは申請書の入手と提出の2回サービスセンターに行く必要があるため面倒。FAX等で手続きが可能になれば利用しやすくなる

地域区分	中流右岸域	利用団体等の名称	高槻市立第七中学校
主な活動地区	三島江地区他		

取組みの概要

- ・中学校の理科クラブによる三島江地区～芥川合流点の淀川の水質と生物調査をを継続的に実施
- ・淀川の上流部から河口までを見て回り、淀川河川敷はゴミが非常に多いことを発見し、河川サポーターの申請を行い、毎月清掃活動を実施

ご意見の要点

淀川河川敷にはゴミが非常に多い
 環境学習等への利用には、まず水辺に近づけることが重要
 淀川の水質は、水にふれあうには問題のない水質である
 淀川周辺の見どころを解説する看板類が少なく、反対に行為禁止の看板類が非常に多い。看板の数や種類が多とあって読む気がしなくなる
 高槻の三島江付近のくらわんか舟の発祥地など、淀川周辺には知られていない資源がある。淀川や周辺のまちの魅力を解説する看板があるとよい

地域区分	中流右岸域	利用団体等の名称	淀川河川レンジャー(酒井氏)
主な活動地区	三島江野草地区、大塚地区		

取組みの概要

- ・野鳥・生物・植物等のモニタリング調査を実施
- ・三島江野草地区の「利用意見交換会」の開催
 [利用意見交換会の内容]
 - ・淀川では河川敷の切り下げ等、河川形状の修復の取り組みにより、水陸移行帯等を保全・再生することで、生態系のネットワークを図っている
 - ・三島江野草地区の河川敷切り下げ区域は、自然環境の特性を損なわない中で、散策や観察など自然と触れ合う公園利用を行う「水辺環境保全・再生ゾーン」となっている
 - ・意見交換会では「水辺環境保全・再生ゾーン」の利用のあり方について、野鳥・生物・植物等のモニタリング調査を通じて意見を交換している

ご意見の要点

三島江野草地区には、高水敷の切下げにより、水面の高さが異なる湿地があり、多様な生物生息環境が存在している
 自然生態系の保全・再生のためには冠水頻度による地形管理が必要
 自然環境の特性を損なわない中で、散策や観察など自然と触れ合う公園利用には、利用のルール・マナーが必要
 大塚地区の高水敷の切下げが予定されている箇所は、水面との高低差が大きく、現状でも水面と中洲の植生がよく見える